

令和6年9月30日

筑紫野市議会
議長 赤司 泰一 様

広報委員会
委員長 原口 政信

令和6年度 広報委員会行政視察研修報告書

広報委員会行政視察研修について、下記のとおり報告します。

記

1. 視察日

令和6年7月4日（木）～7月5日（金）1泊2日

2. 視察先及び研修項目

○宮城県柴田町	「議会だよりの編集について」	7月4日(木)
○宮城県東松島市	「議会だよりの編集について」	7月5日(金)

3. 視察者

議 員 原口 政信 委員長、前田 倫宏 副委員長、西村 和子 委員、坂口 勝彦 委員、
段下 季一郎 委員、赤司 祥一 委員
随行者 森 敬 議事課主査

4. 内容 別紙のとおり

宮城県 柴田町

視察日 令和6年7月4日

説明者 議会事務局 次長 高木 信孝様

【視察目的】

現在、本市の議会だよりは書籍に掲載されるなど一定の評価を頂いている状況ですが、柴田町の議会だよりは、表彰されているため、取り組みを参考とするため視察を行った。

【議会だより概要】

昭和53年創刊で、184号を発行。発行回数は定例議会毎に年4回（5、8、11、2月）。発行実績は、直近の184号は24ページ、16,600部。市民に説明するため、1ページあたりの単価は78.1円との記載がある。

町内全世帯に行政口調を通して配布。また、議会事務局から仙台より南の地域と視察をお願いした近隣議会、地元金融機関や駅3か所、病院にも送付し置かせてもらっている。

1. 編集方針

基本方針として、読みやすい議会だよりを目指し、編集する。そして、町民参加型で、テーマを作り、予算・決算・重要案件には議会と町民の視点を掲載する。政策サイクルを意識した編集（決算での提言など）を心掛ける。審議結果だけではなく、審議経過を伝え、町民の関心が高い議案等に優先順位をつけ掲載する。

写真を1ページに1枚付けるようにし、動きのあるものを使用する。各委員が取材し、年間を通じ対象施設（学校、保育園、放課後児童クラブなど）を回る。

一般質問は、質問した議員が作成し、記事内容は簡潔に努めることとしている。

2. 編集体制

平成23年から常任委員会化しており、定数は7名で任期は2年となっている。ページ毎に担当者がおり、総括は正副委員長が行い、原稿作成は全員で行い、写真担当が専任で1人いる。議会事務局は、委員会庶務、原稿整理、写真整理を行う。

3. 編集の基本的事項

住民登場企画が特色である。

討論については、討論した議員が作成し、用紙をまとめ指定した日までに委員会に提出する。総括質疑も同様である。

また、珍しいものとして、サークル紹介がある。サークル紹介は、記事と写真の選定は広報委員

が輪番制で担当している。町民参加はどこに必要なかを考えたときに、活動団体があると考え、まずは議員の関わりのある団体から紹介することとなった。

紙面で使用する写真について、一般質問については質問者に提出してもらうほか、希望により委員会が撮影する。他の紙面での写真は編集担当の委員が指定する。撮影は写真担当の委員が行い、委員会で協議の上、掲載する写真を決定する。

最終校正は、印刷工場に出向いてレイアウトと内容を確認しながら行う。

【質疑応答】

Q：住民登場企画で子どもが登場しているが、どのように依頼しているか？

A：予算時には、各委員が作成している。担当委員がスマホのアプリを使ってやり取りをしている。表紙の子どもの写真は、町民に手に取ってもらえるよう採用している。取材方法は、年間を通じて学校等を決め、事務局を通して連絡している。子どもの写真を掲載する場合は、必ず保護者の許可を取っている。

Q：障がい者等への対応は？

A：特別な対応は行っていない。

Q：1ページの単価を掲載している理由は？

A：フルカラーは高いという市民の認識もあり、予算がいくらかかっているか説明する必要があると考えたため。

Q：常任委員会化した理由は？

A：特別な理由はない。

Q：イベントやサークル紹介の流れは？

A：町民参加はここで、ということで活動団体が色々あるので、議員と関係性があるものもあるということで輪番制で取材してページをつくることになった。委員に任せている。イベントについても、年間で計画を立てて先方に打診しており、表紙と裏表紙の写真を連動させている。

Q：予算決算に町民の視点を入れるとは具体的にはどういう意味か？

A：年代、性別、地域も意識しながらインタビューを取っている。議会だよりの指導を受ける時に、町民の視点を入れるよう言われている。できるだけポジティブな意見をもらうようしている。

【まとめ】

住民登場企画のうち、サークル紹介については、その関係者も議会だよりに関心を持ってもらえ

ることが期待されるので、本市でも採用を検討してみてもは、と考える。また、1部あたりの経費は市民に対しての説明責任を果たす観点から掲載すべきだとも考える。

【状況写真】



宮城県 東松島市

視察日 令和6年7月5日
説明者 東松島市議会
議会事務局

【東松島市の概要】

東松島市は、宮城県東部に位置し、仙台市の北東約30kmの距離にあり、東は石巻市、西に松島町、北に美里町に接し、南側は太平洋に面している。気候は年間平均気温や降水量からみても、東北地方としては比較的温暖で雨量が少ない地域にある。市域の東部は、肥沃な田園が広がる平坦な地形、中央部には四方を一望できる桜の名所「滝山」を中心とする丘陵地、西部は、一級河川鳴瀬川・吉田川が太平洋に注ぐとともに、南西部には風光明媚な日本三景「特別名勝松島」を有し、変化に富んだ美しい自然景観を有している。

また、アクロバット飛行で有名な「ブルーインパルス」の本拠地である航空自衛隊松島基地があり、市内上空では、日常的に飛行訓練が行われている。基地周辺でタイミングが合えば、大空に描かれる「スモークアート」に出会うことができる。

東松島市：人口 38,168人 面積 101.30㎢ （令和6年4月1日現在）

議員定数 18人

【視察目的】

東松島市は、内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、住み続けられるまちづくりを進めている。尚、平成30年6月に全国29自治体のひとつとして、被災3県の中では、当市のみである。

東松島市議会広報誌には、表紙や一般質問の誌面に「SDGs（持続可能な開発目標）」のロゴおよびアイコン等を表記しており、創意工夫のあるデザインを取り入れている。

本市議会の「議会広報誌に係る編集方針」では、親しみやすく、惹きつける広報誌を目指していることから、新たなデザイン等を参考にするため、行政視察を行った。

【掲載内容】

- ・表紙（写真、目次、SDGs・脱炭素先行地域ロゴ等）
- ・賛否が分かれた議案
- ・議案および質疑
- ・一般質問（内容、議員のイラスト、SDGsアイコン、写真大）
- ・議会活動
- ・次回定例会日程
- ・ご意見およびご提案
- ・問い合わせ先
- ・編集後記

【質問事項】

（1）議会だよりの概要について（発行回数、ページ数、単価、編集スケジュール等）

（回答）発行回数：年4回（5月・8月・11月・2月）、ページ数：各号16頁、
単価（頁）：1,656円、編集スケジュール：約1ヶ月で、委員会は3回開催

（2）議会だよりの編集全般について（写真・記事作成の議員と事務局の役割分担、記事作成のルールブック、SDGsの表記、議員のイラスト）

（回答）一般質問の記事及び写真、委員会の審査結果及び視察報告等は、議員が作成している。表紙の写真は、各委員から候補を伺い事務局で用意している。その他の記事は、事務局で作成している。ルールブック等は、特になし。SDGsの表記は、平成30年の6月に「SDGs未来都市」に選定されたことに伴い、令和3年の8月1日発行第49号から一般質問の記事にSDGs表記を行っている。また、第70号よ

り一般質問の議員写真が、イラストに変わっているが、以前、議会事務局に所属していた職員が作成したものである。

(3) 住民登場企画について(住民への取材はどのように行われているのか。)

(回答) 現在、対応していない状況なので、今後の検討課題とする。

(4) その他(本市議会では、視覚障がい者に音声を録音したCD-Rを配布しているが、障がい者等への対応で行っていることがあるのか。)

(回答) 現在、対応していない状況なので、今後の検討課題とする。

【質疑応答(抜粋)】

問：表紙の写真の選定方法は。

答：市の行事を参考にしている。市の広報で、取材している写真で使用していないものを掲載している。また、写真コンテストの入賞写真を使用している。

問：委員会の視察報告の記事で、各委員会1頁と丁寧に報告されているが。

答：過去の議会だよりでも、1項で作成している。

問：一般質問の目次に、総合計画毎に題目と頁数が記載されてあるがいつからの取り組みなのか。

答：2年前から、前任の担当者が考えはじめた。

問：一般質問でSDGsの表記があるが、該当する番号の選定方法は。

答：掲載記事を作成した議員本人で選定している。

【まとめ】

東松島市議会の広報誌は、「SDGs未来都市」に選定されたことに伴い、表紙や一般質問にSDGsを表記し、市民に身近なものとして捉えていただけるようなデザインを施している。また、政策や施策と関連づけることで、幅広い世代へ向けてSDGsに関する意識醸成も図られている。

表紙には、ブルーインパルス(自衛隊に所属する曲技飛行隊)や成人式など市民に親しまれている写真を採用し、議案や委員会及び一般質問の記事では、写真の余白を大きく設けるなど、視覚を考慮し、多くの市民に読んで頂ける広報誌となっている。

本市議会の広報誌においても、親しみやすく、惹きつける広報誌を目指していることから、新たなデザイン等を取り入れていくうえで参考にさせていただく。

【視察研修状況】

